

## 生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画改定懇話会（第2回）会議録

【日 時】 令和7年10月20日（月）午後1時30分～午後4時00分

【場 所】 生駒市役所 大会議室（4階）

【参加者】 花嶋 温子座長、河瀬 玲奈、藤堂 宏子、上武 敏一、吉田 万依、藤尾 庸子、樽井 雅美、清水 綾、瀬戸 清己、高橋 雄一郎、市坪 敦子

【事務局】 川島地域活力創生部長、谷次長、河島環境保全課長、木戸課長補佐、柳田係長、久保係員  
地域計画建築研究所 斎藤、佐土井

### 【議事内容】

#### 1) 開会

#### 2) 議題

##### （1）基礎調査内容の調査結果について

- ・事務局説明（資料2）
- ・意見交換

○市民アンケート結果について、昨年度との差が大きい項目については、クロス集計して要因をさらに分析してほしい。

○例えば、フードドライブなどについて、子育て世帯等が参加しやすいように曜日や時間帯に幅を持たせてもらえばよいと思う。

○集団資源回収の利用について、前回のアンケート結果での「はい」が逆に多すぎる（前回93.8%、今回64.9%）のではないかと思う。

○フードドライブをしている団体だが、持ち込みが可能な個所も増えているので使っていただければと思う。また食材の提供先からの声を広報紙などでアピールするなど、結果のアピールもしてほしい。

##### （2）計画の素案について

- ・事務局説明（資料3-2、3-3）
- ・意見交換

○計画の中に処理フローがない。P.3にて、5Rが突然出てくるので、初めて見た人もわかる説明があった方がよいのではないか。

→対応する。

○外国人も増えてきているので、そこへの対応が必要ではないか。アプリで対応とかでもよいと思う。

→ごみ分別ガイドブックの多言語化を進めており、現状はその取組を中心に情報提供を行っている。アプリ対応については、課題等を整理した上で今後の検討課題とする。

○委員になってから意識が高まり、セカンドストリートへの古着持ち込み、フードドライブへの寄付などをするようになった。先日セカンドストリートに行ったら、たくさん持ち込まれていた。ごみ量にこれらの量は含まれているのか。

- ごみ量には含まれていないが、施策としては関わりがあり、セカンドストリートにも講師としてリユースの話をしてもらうなど取り組みを進めているところである。
- 民間資源化量については把握できないので、計上していない。スーパーの店頭回収などは把握しきれない。ただ、これらが進むことで燃えるごみの量は減るはずであり、それは計画で目指しているところである。
- ペットボトルが減るようにと思ってマイボトルを持っているが、飲料が足りずに出先で買うことがある。駅などのよく使われる施設にもっと給水所があるといいと思う。
- 生駒市はおいしい水道水であるということを水道局がPRするために給水スポットを設けている。
- 家庭系の剪定枝の資源化取組は、既に行っているのか。事業系の剪定枝と同じように資源化できないのか。
- 清掃リーセンターで家庭用の剪定枝の粉碎機の貸し出しを行っている。そこから発生するチップは自宅で使ってもらう想定としており、その意味で資源化と考えている。事業系の剪定枝については、街路樹や学校の刈草など一定量が排出されるものを民間施設に搬入している。家庭系ごみについては、他のごみの混入やごみ袋等のため、同様の処理が難しいということで、いまは量の多い事業系のみ対象としている。
- 紙おむつについて、調査を行うという施策があるが、どのように資源化するのか。水平リサイクルはできないのか。
- 紙おむつの水平リサイクルについては、九州の一地方で取り組みが始まっているが、距離の問題で搬入することが難しい。特殊な収集方法が必要である等の問題もある。福祉施設や保育園などの完全に分別収集が可能な事業所での実施を検討していると思っている。完全な水平リサイクルは難しいため、他の事例として簡易なりサイクルとして燃料化を行っている。
- 介護の場でおむつは多く排出されており、まごころ収集でおむつを排出している家庭は多いと思う。この状況を活かせるように実態を把握してほしい。
- 紙おむつのリサイクルについて、保育園でできるとよいと思う。
- また、公立保育園では給食残渣の回収・資源化が行いやすいと思う。さらに資源化の過程を子供に教育することも併せて行えるのではないか。食べ残しは資料3-3（後期計画 基本施策実施によるごみ削減量）の中で3%という最も大きな割合を占めており、減らせる部分があるので、啓発が大事だと思う。
- 対応する。
- 給食の食べ残しが多いことも気になっている。また、衣料が昔と違い使い捨てのようになっている。食べ残しが出ないように、ものを大切に使い続けるようにという道德的な教育を取り入れることができないかと思う。
- 剪定枝のリサイクルについて、公園で自治会が生駒市から管理を委託されていることが多く、自治会自身で管理をする場合と、シルバー人材センターへさらに委託するパターンがある。シルバー人材センターのものは、事業系の剪定枝のように、剪定枝リサイクルに回せないか。

→シルバー人材センターが委託されて行っている活動や国道関係からの剪定枝は基本的に民間施設に持つてもらいうように依頼している。また、リレーセンターへの直接持込分についても、一定量以上で混入物の無いものについては直接民間施設へ持つて行っている。

○資料3-3について、令和元年度から12年度にかけて、人口減少とそれによる減量割合が対応していないように見える。

基本施策③において、食品ロスを食品ロス・食品廃棄物と併記するように変更しているが、食品ロスのみのほうがわかりやすいのではないか。

具体施策にバイオディーゼルを使用したごみ収集車があるが、バイオディーゼルはB5か。また、また、何台稼働する予定か。

→令和12年度の人口減少のみを考慮した排出量は、令和6年度の排出原単位をもとに計算している。

食品ロスの表記について、前回の策定時も同じように表記をわかりやすくしてほしいという指摘があったので、配慮したい。

バイオディーゼルはB100の予定である。来年度にはバイオディーゼルを使用したごみ収集車が稼働できるように予定している。事業所からの食用油を用いていること、専用車両が必要であることから、台数は1~2台の予定である。

○アプリ「さんあ～る」について、地区名を入力すれば集団資源回収がどこでどの日にやっているかなどがわかるといいのではないかと思った。

→集団資源回収は各地域の自治会やPTA等で収集業者と契約して行っているので、市で整理して把握することは難しいが、利用者にとってわかりやすくできればと思う。

○まごころ収集について、民生委員でも知らない人が多い。また高齢者しか利用できない制度と思っていて、要介護認定等相談したら柔軟に対応してもらえるということを知らない人が多い。またケアマネなどへ周知してほしい。

○紙おむつについて調査すると記載があるが、紙おむつを使い終わってもう少し年が上の子供に紙おむつのリサイクルについて教育をしてもよいのではないか。

またBDF燃料の活用について、新車購入してということだと思うが、中古利用などは考えないので。

→BDF車については、委託先にて既存の車両を活用すると聞いている。

### (3) 改定スケジュールについて

- ・事務局説明（資料4）

### 3) その他

○集まるのは、本日が最後である。場合によってはメールのやりとりがあるかもしれない。その場合はご協力ををお願いすることになると思うが、よろしくお願ひしたい。

### 4) 閉会